

# かたりべ 95

豊島区立郷土資料館だより

企画展 12月6日(日)まで開催中 **入場無料** 午前9時〜午後4時30分 ※休館日:月曜、11/24(火)  
11/23(祝)を除く

**帰ってきた！トキワ荘のヒーローたち**  
〜マンガにかけた青春〜

豊島区椎名町五丁目(現・南長崎三丁目)にあったトキワ荘(一九五二年上棟、一九八二年取壊し)は、地方から上京した若きマンガ家たちが集い、切磋琢磨しあつた「マンガの聖地」として全国的に知られています。

当館では、一九八六年に特別展「トキワ荘のヒーローたち」漫画にかけた青春」を開催しました。左の襖は、「トキワ荘ゆかりのマンガ家たちが集まって公開

座談会を開いた時、四畳半の部屋(再現展示)で寄せ書きしていただいたものです。右側の上から、長谷邦夫、石ノ森章

太郎、水野英子、藤子・F・不二雄、藤子不二雄②、赤塚不二夫の六名、左側の上から、寺田ヒロオ、永田竹丸、横山孝雄、丸山昭(編集者)、つのだじろう、鈴木伸一の六名の自画像とサインです。

今年四月、トキワ荘跡地に近い南長崎花咲公園に記念碑が設置されたのを記念

して、二三年ぶりにトキワ荘のヒーローたちが帰ってきます。

今回は、手塚プロダクションとの共同企画により、トキワ荘に集った若きマンガ家たちの青春と戦後のマンガ文化を、当時の作品や資料をもとに一堂に紹介いたします。また第二会場では「椎名町」にスポットをあてたパネル展示や、地域の実行委員会による各種イベントも同時開催いたします。

秋の一日、池袋〜椎名町を巡りながら、〈豊島区発！マンガ文化〉を満喫しませんか。



(右側上から) ©長谷邦夫 ©石森章太郎プロ ©水野英子 ©Fujiko-Pro ©藤子スタジオ ©フジオ・プロ ©寺田ヒロオ ©永田竹丸 ©横山孝雄 ©つのだじろう ©鈴木伸一

## ■第二会場のご案内

「椎名町物語〜トキワ荘のあつた街〜」※12月6日(日)まで

椎名町の歴史と、昭和30年代のマンガ家たちの「生活・文化圏」マップをパネルで展示。

・会場:豊島区立区民ひろば富士見台 (豊島区南長崎一―六―一)

・時間:午前9時〜午後5時

・休館:11月1日(日)、15日(日)

☆西武池袋線「椎名町駅」南口徒歩5分

## 「どうに注意して保存したらいいの」と工夫しながら

### ■資料についての虫の齧や殻

二〇〇九年二月から本格的に始まったデータベース化の二回目の報告です。

この作業は、資料の取り扱い方に知識と経験がある人たちで行なっています。今回は、パソコンの画面を見て、資料館にはどのような資料があるかすぐわかるまでには、長い時間と細部にわたる注意が必要であるということを書きます。そして、模索しながら行なっている資料を保管するための工夫例を紹介します。



1 竹串は大切な洗浄用具として使います。きれいになって「快感」。

資料の材質にもよりますが、特に木製の農具のなかには、虫の齧が付着していることがよくあります。資料が、資料館へ持ち込まれるとき、虫が生きていることはありませんが、ぬけた殻がついてい

ることはよくあります。まず、農具をよく観察して見取図を書きます。その後、水洗いをするのが一般的です。写真1は、稲や麦を脱穀する時に使用する、一般に「千歯抜き」と呼ばれているもの（解体した道具の一部）です。この農具には、鉄の歯と歯の間に糊殻が付いていました。また、木製の部分には虫のぬけ殻が付いていました。その際、台所によくある楊枝や竹串、さらに、先のとがったピンセットが大いに役立ちます。この作業は、資料をきれいにするためですが、ついている殻が米なのか麦なのかを知ることができ、その千歯抜きが何を脱穀したかがわかります。

### ■資料の大きさに合わせた保管箱

さまざまな資料の中には、保管をどうしたらよいか迷うものが多くあります。そのひとつが炭俵です。収蔵庫の棚に置



2 箱の作り方は先輩調査員からの伝承です。



3 丸炭俵を保管するための箱ができあがり。

いただけでは、炭の粉末が俵の編み目からパラパラと落ち他の資料に影響します。資料として保管するための入れ物がほしいということになり、そこで考えたのは、大きなダンボール箱を解体し、炭俵の大きさと重さに耐えうるものに作り直して納めるということでした。その結果が、写真2・3です。なかなかの出来栄です。旧第十中学校の廊下で行なうこのよ



4 膳や椀が入っている100年以上前のものです。

うな工作は、これからも続きます。写真4の木箱には、膳や椀が収納されています。おそらく、家庭内のお祝いごとで使用したものでしょう。木箱には、鉄釘ではなく木釘が使われていました。で、古いものであることがわかりました。柔らかな紙を紐状にし、その一部に、「取扱注意」のラベルを貼り、取り扱う際の注意を促します。このような、ひとつひとつの資料と対話しながらの作業が、後世へ残すために大切になり、このあたり前のことをしたうえで、データベース化は次のステップへと進みます。現在、約三五〇〇点の資料を洗浄し、所定の保管場所の棚に置きはじめています。それと同時に、データの電子入力作業をしています。山登りなら、まだまだ三合目というところでしょうか。

(福岡)

# セピア色の記憶

## 第24回 谷端川の流路について考えた…

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した昭和三〇年代と現在（二〇〇九年九月撮影）の池袋本町三丁目三番街区付近の様子です。地図に示した\*印は撮影地点を、→印は撮影方向を示しています。



上写真の水の流れは、かつて区内の北西部から南東部へ蛇行しながら縦断していた谷端川です。川沿いに建ち並ぶ平屋



の住居と、その脇を通り過ぎようとする母子連れの姿が印象的です。撮影地点は、昭和八（一九三三年）に完成した「豊橋」（右下写真参照）上と思われる。今は下写真のように暗渠となり、谷端川緑道として親しまれています。上写真左上の架線は、東武東上線下板橋駅近くの引き込み線のもので、現在も引き込み線は同じようにはありますが、塀や建物に遮られ



江戸時代に作成された村絵図をみると、谷端川流域には水田が確認できますので、小規模ながら米の栽培・収穫がなされて

架線の存在を下写真では確認できません。さて、谷端川の水源は、区内要町二丁目（所在する粟島神社内の弁天池で、さらに千川上水（長崎分水）を取り入れて西武池袋線椎名町駅の南側を迂回して北上し、板橋区との区境を流れてJR板橋駅付近で再び南下、JR大塚駅そばを通り、JR水道橋駅付近で神田川へ注いでいました。



現地に今も残る親柱

いたものと思われる。ただし、川幅が狭い上に蛇行していたため、たびたび氾濫を起し、流域に居住する人々を長年にわたり悩ましていました。そこで、昭和二三（一九四八）年以降に暗渠化工事が進み、昭和三〇年代後半には全城で暗渠化が完成します。その後、小学校PTAによる働きかけなどにより、暗渠上部が児童公園として開放されたり、緑道として整備されて現在のような景観になりました。

現在の豊島区内では、唯一神田川が「目に見える川」として人々に親しまれています。しかしながら、今はいずれも暗渠になってしまったものの、谷端川・千川上水・弦巻川・谷戸川・水窪川といった水の流れが、「目に見える川」として区内を流れていた時代があり、川の流れとともに流域で暮らす人々の生活がありました。川の流路の変遷やその意味について、語り継いでいく時代が訪れたようです。

（秋山）

# 郷土資料館からのお知らせ

★二〇〇九年度企画展「トキワ荘のヒーローたち」(第一会場)関連事業について

①トークセッション

日時 二月五日(土)

午後二時～一時間程度

出演 手塚るみ子氏、赤塚りえ子氏

会場 勤労福祉会館 六階 大会議室

定員 一〇〇名

②映画上映会「トキワ荘の青春」

(市川準監督 一九九六年制作)

日時 二月二日(土)、二八日(土)

午前一〇時～一二時

会場 勤労福祉会館六階 第七会議室

定員 各回五〇名



※①②ともに往復はがき(記入例参照)でお申し込みください。二月六日(金)必着。応募者多数の場合は抽選を行います。いずれも参加費は無料です。

【往復はがき記入例】

- ①イベント名
- ②参加希望日
- ③郵便番号・住所
- ④氏名(ふりがな)
- ⑤年 令
- ⑥電話番号

\*展示室には、8ミリ映画「キャッツをネカすな」(藤子不二雄A、藤子・F・不二雄制作)上映コーナー(約一五分間)、こどもマンガ体験コーナーがあります。

## 復活! 区民のための博物館用語の基礎知識

9 博物館実習(はくぶつかんじっしゅう)

大学で学芸員資格を取得するために必要な学生にとっての最終関門。通常一〇日程度博物館業務に従事したり、資料整理・展示作業のノウハウについて学ぶ。教員免許を取得するための教育実習に相当する。

▼類義語▲

館務実習(かんむじっしゅう)

時々こういう風に呼ぶ博物館や大学があるんだな、これが。

▼用例▲

館長A「今年度の博物館実習、おたくはどんなプログラムでしたか?」

館長B「うちは例年どおりモギリと掃除ですよ。ウツヒツヒ…」

館長A「キビシッ…」

## 編集後記

すっかり秋めいてきました。前号の発行から少し時間が空きましたが、「かたりべ」95号をお届けいたします。

昨日より、企画展「トキワ荘のヒーローたち」を開催しております。

当館と区民ひろば富士見台と会場が二つに分かれていますので、我々スタッフも準備段階では両会場間を走り回ってようやく開催にこぎ着けました。二月六日までの会期中にぜひ二会場とも見学ください。

「資料館の法則」に続き、今号より「区民のための博物館用語の基礎知識」が復活しました。息抜きミニコラムとしてお目通し願います。

(秋山)

かたりべ  
No.95

2009年10月25日

豊島区立郷土資料館

東京都豊島区西池袋2-37-4  
豊島区立勤労福祉会館7階

電話 03-3980-2351

URL: <http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/>